

端野町の 祭事と諸事業について(その3)

戦後の祭事

○公葬等の禁止

昭和二〇(一九四五)年八月一日、日本はポツダム宣言を受諾し、太平洋戦争敗戦でその幕を閉じました。九月二日、米海軍ミズリー艦上で無条件降伏に調印し、九月八日連合軍の進駐に伴い占領政策が始まりました。占領政策の基本は、日本が二度と戦争を起こさないよう軍国主義を排除し、民主主義を推進することであり、戦争に関わった人たちを全ての公職から追放し、社会、経済、教育、文化をはじめ国、地方、家族制度に至るまでの大改革が、連合軍総司令部(GHQ)の指令のもと行われました。

また、昭和二一(一九四六)年一月三日、新しい「日本国憲法」が公布され、翌二二(一九四七)年五月三日から施行されました。

この改革により、満州事変(昭和六年)以来戦没者の葬儀や慰霊祭を市町村等公共団体が行ってききましたが、これは禁止されました。

そのため、昭和二一(一九四六)年の開基日の祭事を中止しました。

○端野村開基五〇周年記念式典

及び記念事業

端野総合支所(旧端野町役場)に保存されている「開基五〇周年記念式典関係」の書類「端野村開基五〇周年記念祭の状況」に、次のように記されています。(概要のみ)

*期日

昭和二二年六月七日

此の日の天候は良く風弱く祭典日にして五〇周年に相応しく、盛賑を極めた。

*式典

開村記念碑前

*記念写真の撮影

屯田戸主の記念撮影を開村記念碑前で行う。

*宴会

端野小学校運動場

*余興

野球大会、青年団対抗相撲大会、仮装行列、歌謡コンクール大会

*慰霊祭

六月六日 端野村殉公遺族後援会、同遺族会が主催

*記念品

旧屯田戸主に対し、鉄瓶
一般参列者に対し、盃

*記念事業

屯田墓地の整理(区画整備、無縁等の設置)火葬場の整備



開基五〇周年記念
駅前アーチ

*端野村開村記念碑の建立

大正八(一九一九)年に建立した開村記念碑が軟石のため、風雪により一部が破損していたことから、端野屯田会が新しい「開村記念碑」を旧開村記念碑の近くに建立しました。

*端野町史の編纂

昭和二一(一九四六)年一月、「端野村村史編纂委員会」を設置し、編纂委員に高井一郎氏(当時端野青年学校教諭、後、端野中学校教諭)、小川喜一郎氏(当時端野青年学校教諭、後、端野中学校教諭)、大塚盈氏(当時北見東小学校教諭)に委嘱し資料整理をはじめ編纂業務を始めました。当時厳しい財政のもと、製本発行を諦め、手書き(カーボンで二枚)の二冊を仕上げました。執筆は高井氏で、うち一冊が端野総合支所に保存されています。



開村記念碑

○開基記念祭(開基祭)について

戦前に行われていた「開基祭、招魂祭」は、戦後GHQにより禁止されましたが、戦後の新制度のもと、昭和二三(一九四八)年から、端野村が主催し毎年六月七日に、新しく建立された開村記念碑前において「開村記念祭(開基祭)」を次のような次第で行いました。

*開基記念祭

期日 毎年六月七日
 場所 開村記念碑前
 次第 開会宣言、村長式辞、祝辞、
 万歳三唱、散会
 招待者 旧屯田兵及び家族、村会議員、
 各字区総代、村内の官公署、
 団体代表者

以後、昭和二六（一九五二）年度から、式典終了後に祝宴を催すようになりました。また、昭和三五（一九六〇）年度からは、雨天時の会場変更が参列者の高齢化により困難となったため、会場を野外の開村記念碑前から端野役場会議室に変更し、昭和四二（一九六七）年度からは、新築された「端野町福祉センター」に会場を変更して行われてきました。さらに、昭和五二（一九七七）年度からは、招待する旧屯田兵やその家族の方々が少なくなり、そのため、会場を端野神社に変更し、祝宴を廃止し、以降、平成一八（二〇〇六）年度まで継続実施してきました。

なお、戦没者の葬儀や慰霊祭については、戦前は端野村と在郷軍人会端野分会等が主催し行ってきましたが、戦後禁止となりました。しかし、終戦後になっても太平洋戦争で大義に殉じられた方々の通知が留守宅に数多く届けられました。そのため端野村にあたっては、昭和二二（一九四七）年有志の方々により「端野村殉公遺族後援会」を発足させ、戦死公報のあった家庭での葬儀は後援会が主催し無量寿寺で行いました。

こうした中、端野村殉公遺族後援会と同遺族会、端野屯田会、端野郷友会等が発起人となり、昭和二三（一九四八）年八月、「元屯田兵、戦病死者、開発功労者など端野村の開発、振興発展の礎を築かれた方々の「霊」を祀り、その功績を後世に伝えていく」ために、「祖霊社」を創始しました。

祖霊社の祭神は、物故された元屯田兵、日露戦争以来太平洋戦争にいたる戦役で、祖国の大義に殉じられた方々であり他に類を見ない端野独特の「社」です。社殿は、大正六（一九一七）年に新築された端野神社社殿を移設し、村民の寄付により昭和二三（一九四八）年八月に建設されました。また、この祖霊社の管理運営及び諸事業については、「端野村祖霊社奉賛会」を組織し、この奉賛会が行うこととしており、戦前から行われてきた、開発功労者と戦没者の慰霊祭（「合祀祭」及び「例大祭」）は、端野村祖霊社奉賛会が、昭和二三（一九四八）年度から行うこととなりました。

以来、毎年九月三〇日に「合祀祭」、一〇月一日に「例大祭」を行い、平成一八（二〇〇六）年度まで継続して行われてきました。

しかし、合併後は公費助成がなくなることと、事務局事務の出役ができなくなることから、役員会及び総会に諮り、平成一八（二〇〇六）年九月三〇日をもって端野町祖霊社奉賛会を解散することとなりました。

○合併により「端野自治区戦没者・

開発功労者追悼式」に

平成一八（二〇〇六）年三月五日、端野町は、北見市、常呂町、留辺蘂町と合併し新北見市としてスタートしました。

この合併により、旧端野町として毎年六月七日に行ってきた「開基記念祭（開基祭）」と、端野町祖霊社奉賛会が主催し行われてきた端野町開発功労者・戦没者を慰霊する「合祀祭」及び「例大祭」は、平成一八（二〇〇六）年度をもって廃止されました。

旧端野町が実施してきた「開基記念祭（開基祭）」、旧端野町祖霊社奉賛会が主催し行ってきた「合祀祭」及び「例大祭」は、平成一九（二〇〇七）年度

から、北見市が主催する「端野自治区戦没者開発功労者追悼式」となり、毎年六月七日、屯田の杜公園内の「開拓功労者乃名碑」と「戦没者乃名碑」前で行われ、今日に至っています。

○開村六〇周年、分村三五周年記念式

及び記念事業

昭和三二（一九五七）年には、端野村開基六〇周年、分村三五周年記念式典及び各種記念事業が行われましたが、その概要は次の通りです。

*慰霊祭

場所 無量寿寺
 六月六日 午後二時

*記念式典

場所 開村記念碑前
 六月七日 午前九時

*祝賀会

場所 端野小学校室内運動場
 六月七日 午前一時

*記念事業

村民野球大会 村民歌謡コンクール 仮装行列 展示会

アーチの設置、端野駅前、端野中学校正門前、一区、二区、三区、緋牛内の各地で青年団によりアーチを設置

*余興

「映画会」 各自治区ごとに開催

*記念品

表彰者（旧屯田兵）に鉄瓶
 村民各戸に盃



六〇周年
 開基式典
 記念式

*参考文献

新端野町史（平成一〇年十月十日）

北見市役所端野総合支所に保管されている

関係書類

田中 誠